

2025 年度(後期)海外渡航旅費助成金 成果報告書

名古屋大学大学院 環境学研究科

博士後期課程 2 年 松山和樹

日本地震学会より海外渡航費を助成していただき、2025 年 8 月 31 日～9 月 5 日にかけてポルトガル・リスボンにおいて開催された IAGA / IASPEI Joint Scientific Meeting 2025 に参加いたしましたので、その成果についてご報告いたします。

同大会は IAGA (International Association of Geomagnetism and Aeronomy) と IASPEI(International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior)の合同開催で、研究テーマは地震学のみならず、地磁気・電離圏科学、地質/地球化学等との分野横断型研究など多岐にわたりました。私は今回が初めての参加でしたが、合同大会は 2021 年のハイデラバード(インド)大会以来 4 年ぶりということもあり、会場は熱気で溢れているように感じました。

私は「Effects of crystal-fabrics and mineral modes on seismic anisotropy in the lithospheric mantle: a numerical analysis using Horoman peridotites, Japan」という題目で口頭発表を行いました。地震波異方性は上部マントルの流動構造や変形履歴を理解するための鍵となる観測的情報ですが、物質科学(地質学)の側面からは、マントルかんらん岩をかんらん石単相系の物質として仮定することで評価されてきました。しかし天然に産するマントルかんらん岩はかんらん石以外にも直方輝石や単斜輝石などの鉱物を含み、またそれぞれが異なる弾性的異方性を示します。そこで本研究では、北海道の幌満かんらん岩体を対象として、かんらん岩中の主要鉱物の割合と、結晶方位定向配列の変化が、上部マントル内における地震波異方性にどのような影響を与えるかを詳細に検討しました。

本研究の骨子は Earth, Planets and Space 誌に掲載された内容ということもあり (Matsuyama & Michibayashi, 2024)、発表後には何人かの方から声をかけていただきました。国外開催の学会における口頭発表は今回が初めてでしたので、発表前は不安でいっぱいでしたが、「地質学的研究と地球物理学的研究との架橋」という目標達成に向けてアイデアを得ることに成功し、良い時間を過ごすことができたと感じています。このような経験をご支援くださった日本地震学会およびその関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。